

教 育 研 究 業 績 書

令和 6 年 9 月 10 日

氏名 鄭 英美

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
身体教育学・発育発達・応用健康科学	身体発育発達学・幼児教育・健康・表現・体育科教育	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例		
①異文化理解・国際交流・教育ボランティア能力の向上	平成28年7月より	①海外途上国への教育ボランティアの実施、(学生指導・引率)
②身体・健康教育の国際化・指導実践力の育成	平成28年12月より	②カンボジアの幼・小・中校・教員養成大学での運動遊び・体育教育の実践、模擬授業の指導・実践(学生と共にSDG sの実践)
③日・韓学生間 学術・文化国際交流	平成28年12月より	③国際理解、情報交換、スポーツ交流、卒業研究(国際比較)
④地域との連携「親子健康体操教室」の実施	平成28年12月より	④福岡県岡垣町地域連携事業プラン「幼・児童の健康・体づくりのための親子体操教室」指導実施(学生と共に参加)
⑤幼・小におけるスクールリングの実践	平成29年11月より	⑤近隣の幼・小と連携し、「遊びのボランティア」学生における指導企画運営
⑥やる気支援実践(学生個別支援)	平成29年4月より	⑥教員採用試験のための対策セミナー、外国語取得のための支援(韓国語・文化体験)(学生のやる気に応じての教育サポート)
⑦外国の大学院 招聘講義	平成30年4月より	⑦韓国の大学教育大学院(日本と韓国の教育についての講義)
⑧On-line Channel活用での学生指導	令和2年4月より	⑧新型コロナウイルスの影響で対面での指導ができなくなり、大学のポータル以外に本人担当すべての科目のSNS On-lineグループ設け、24時間、学生対応ができるようにしている。
⑨地域社会福祉事業団との連携(地域貢献)「学生による運動遊びのボランティア」指導	令和2年4月より	⑨「学生による現場ボランティア活動」実施で、子ども理解や現場理解・学習意欲促進(地域児童館、多くの学生の参加)
⑩PBL(Problem-based Learning課題解決型)学習授業の運営	令和2年9月より	⑩PBL(課題解決型)学習を通して、自ら課題を見つけ卒業研究に活かし問題解決能力の育成
⑪幼児教育(健康、表現領域関連指導)	令和3年4月より	⑪「健康・表現」領域の指導の際に「子どもの運動遊びや身体表現遊びに対しての重要性の強調」授業で積極的に取り入れ、学生による模擬保育を通して指導実践力の向上につなげている。
⑫保育・教育実習指導	令和3年4月より	⑫保育・教育実習指導担当教員として、事前事後指導及び巡回指導

2 作成した教科書, 教材 [2015改正]小学校 (3年生) 体育教科書 [2015改正]小学校 (4年生) 体育教科書 [2015改正]小学校 (3年生) 教師用指導書 [2015改正]小学校 (4年生) 教師用指導書	平成27年3月 から 平成29年9月 まで 執筆	検定教科書 (株) 飛上教育 小学校 3、4年生 体育教科書及び教師用 指導書の執筆 平成30年3月、新学期から使用中 表現運動領域: 身体表現 (3年)、リズム 表現 (4年)
3 教育上の能力に関する大学等の評価 ①大学評価 (教育・研究): A等級 (令和年 ②学生による授業評価: 年間平均 4.6点	令和2年 3、9月の結果	令和4年度、前・後期、11科目 17コマ指導 ・前期: 6科目7コマ、(実習指導含む) ・後期: 5科目10コマ (卒業研究含む)
4 実務の経験を有する者についての特記 ① 幼・小におけるスクールリングの実践 ②地域との連携で「学生における指導実践 力養成」	平成29年4月 より	①近隣の幼・小と連携し「運動遊びのボラ ンティア」支援指導 ②岡垣町、北九州市社会福祉事業団「幼・ 児童の健康・体づくりのための体操教室」 「学生による教育・運動遊びボランティ ア」指導実施
5 その他 ①日・韓大学・地域スポーツ交流支援	平成28年4月 より	①日・韓大学および地域の各スポーツ競技 団体と協力し、日・韓スポーツ交流の支援 活動。平成28年から4年間30回程実施
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 資格, 免許 ①中学校教諭二種免許 ②日本語能力検定1級 ③運動実践指導者資格 取得 ④ヨガ指導者資格 ⑤体育学 修士の学位授与 ⑥体育学 博士の学位授与 ⑦体操競技 審判委員資格取得 ⑧一輪車3級指導者資格 ⑨チアリーディング指導者養成資格 ⑩心理カウンセラー1級	平成5年3月 平成6年2月 平成6年3月 平成17年3月 平成21年2月 平成24年2月 平成24年3月 平成24年3月 平成26年3月 令和2年12月	①福岡教育委員会 (保健体育平四中二 第 三 五二号) ②財団法人日本国際教育協会・国際交流基 金 (第4100645語号) ③財団法人健康・体力づくり 事業財団 (第29419061号) ④ヨガ指導者資格 ⑤体育学 修士の学位授与 (釜山大学2007修561号) ⑥体育学 博士の学位授与 (釜山大学2011博131号) ⑦大韓体操協会 (器械運動、体操指導) ⑧一輪車3級指導資格 (KUAL第12-0105号) ⑨韓国チアリーディング協会 ⑩韓国資格評価院 (第2020-KQA103139号)
2 特許等		なし
3 実務の経験を有する者についての特記 事項 ①九州共立大学 体操競技部コーチ ②国際交流ボランティアサークル顧問 ③発育発達学会 理事 ④日韓体育政策関連研究調査参加 ⑤日韓スポーツ関連共同研究 (実施・通 訳)	平成28年4月 平成28年4月 平成29年3月 令和元年7月 令和元年8月	①体操競技部 女子部 コーチ ②国際交流・国内・外教育支援ボランティ ア活動、引率指導 ③発育発達学会 (幼児・体育教育関連) 論 文審査 ④日韓体育政策関連研究 参加・通訳、 ⑤卒論の指導などで日韓比較研究実施・指 導

⑥学会論文査読		令和2年5月		⑥九州体育・スポーツ学会 論文査読
⑦2021男女共同参画フォーラム 講演		令和4年5月		⑦日韓の女子スポーツを知ろう！
4 その他				特記事項なし
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 著書：4冊				
1. [2015改正]小学校3年生 体育教科書	共著	平成29年9月	(株) 飛上教育 教育府検定教科書 平成30年 新学期より 使用中	[2015改正 教育課程] 検定教科書 ・ 小学校 3年生：表現運動分野：身体表現執筆 (2学年10領域：執筆者 計：12名) Sohn, Park, (鄭英美)、Song, An, Lee, Kim, Han, Nam, Aum, Kim, Sohn)
2. [2015改正]小学校4年生 体育教科書	共著	平成29年9月		[2015改正 教育課程] 検定教科書 ・ 小学校 4年生：表現運動分野：リズム表現執筆 (2学年10領域：執筆者 計：12名) Sohn, Park, (鄭英美)、Song, An, Lee, Kim, Han, Nam, Aum, Kim, Sohn)
3. [2015改正]小学校3年生 教師用指導書	共著	平成29年9月		[2015改正 教育課程] 検定教科書 ・ 小学校 3年生：表現運動分野：身体表現執筆 (2学年10領域：執筆者 計：12名) Sohn, Park, (鄭英美)、Song, An, Lee, Kim, Han, Nam, Aum, Kim, Sohn)
4. [2015改正]小学校4年生 教師用指導書	共著	平成29年9月		[2015改正 教育課程] 検定教科書 ・ 小学校 4年生：表現運動分野：リズム表現執筆 (2学年10領域：執筆者 計：12名) Sohn, Park, (鄭英美)、Song, An, Lee, Kim, Han, Nam, Aum, Kim, Sohn)
(学術論文) 学会紙・教育関連雑誌 20編				
1. 『生徒選手の人格教育実現のための診断(Q方法論利用)』	共著	平成24年2月	韓国体育教育学会誌 第18巻・第3号 pp. 91-108	本研究は、生徒の人格教育の実現を目的に行った研究である。診断方法としては人間の主観性を測定できるQ方法論を利用し、怒りの表現タイプ及びタイプ別特徴について分析した。タイプⅠ、怒り調節型：冷静的に捉え、自ら感情コントロールするタイプ、タイプⅡ、怒り抑制型：怒りを感じながらも、他人に直接的に表現せずに自分の感情や思考を抑えるタイプ、タイプⅢ、怒り表出型：怒りをそのまま悪口や過激な攻撃行動をとる怒り表出型であった。 (鄭 英美、金准勇) 『共同研究につき本人担当部分抽出不可能』

『博士論文』 2. 『Delphi/AHPを用いた韓国体操発展のための実践課題の模索』		平成24年 2月	釜山大学 大学院 体育学科 (総:133頁)	本研究は、Delphi/AHP分析を通して韓国の体操界の発展のため役立つ実践課題を模索した研究である。研究方法は、韓国体操協会の関係者・体育行政政策専門家などを対象に3回のDelphi調査で、問題点とそれぞれに対する改善方案を導出した。その後、AHP分析を通じて改善法案項目毎の上/下位、重要度及び優先順位を導出した。問題点とその改善法案として、①選手底辺拡大方法として、遊び感覚の体操ができるような体操教室を増やすなど7個項目、②指導者の処遇関連7個項目、③選手学力関連6個項目、④体操人福祉改善関連6個項目、⑤競技力強化/訓練支援関連7個項目が導出された。上位5個項目に対して総33個の改善案が抽出された。
3. 『韓国体操発展のための国際交流の必要性 -日韓中高体操選手を中心に- 』	単著	平成25年 5月	韓国体育教育学会誌 第18巻・第1号 pp. 285-299	本研究は、韓国の体操の発展のための研究として、日韓の中・高体操選手と体操競技関係者を対象に体操における国際交流の実施現況及び効果・必要性についての調査研究である。選手・関係者共に国際交流は必要であると答えた。効果では、外国人の友達との交流の拡大、モチベーションの向上など、期待では、国際的感覚の向上、モチベーションの向上、人的ネットワークの拡大等。専門家の意見としては、選手関連の部分で、外国との練習プログラムの共有、国際的な情報共有、指導者関連部分では、指導専門性の共有、国際感覚の向上、審判能力の国際化などであった。
4. 『小学校における器械体操授業に関する研究の動向分(1-2009改訂教育課程)』	単著	平成25年 10月	韓国初等体育学会誌 第19巻・第3号 pp. 141-150	本研究は、小学校における器械運動授業の活性化のための基礎研究として器械運動に関する先行研究の動向について分析したものである。調査対象としては、1次から2009教育課程に関連した学術論文を対象としている。研究内容としては、時期、テーマ、対象、研究方法に分類し分析した。結果、研究時期としては、1998-2006年が一番多く、テーマとしては、指導方法、教師の専門性、学習内容、実施状態の順で行われていた。研究対象としては、生徒を対象にした研究が多かった。
5. 『小学生の体育に対する認識が器械運動授業参加態度に及ぼす影響』	単著	平成26年 10月	韓国体育教育学会誌 第19巻・第1号 pp. 49-61	本研究は、小学生における体育の認識が器械運動授業への参加態度に及ぼす要因について分析した研究である。中学校1年生640名を対象にアンケート調査を行った。「体育好感度」「体育有効性」「体育期待感」器械運動の授業参加態度にはこれら3つの因子が最も高い影響を与えることが分かった。下位要因別寄与度については体育評価 ($\beta = .420$) スポーツの必要性 ($\beta = .208$) 体育効用 ($\beta = .131$) 体育期待感 ($\beta = .112$) の順に影響を与えることが分かった。

6.『Q方法論を用いて小学校教師希望学生における器械運動授業に対する認識調査』	単著	平成29年 8月	韓国体育教育学会 第22巻・第2号 pp. 19-35	本研究では、教員養成大学での体操授業づくりの基礎資料として、教員志望学生における体操の授業に対する認識とタイプ別の特性を分析をした。結果、3つのタイプに分類。タイプⅠ「技能達成志向型」は、身体的能力の価値を重視、高レベルの能力を持つ、過去積極的な授業参加で多くの成功や達成感の経験、肯定的認識を持っている。タイプⅡ「認知教育志向型」は、技能はやや低いが技能の大事さと共に体操の本質的価値や知識的部分に対しても認識が高い。タイプⅢ「授業消極回避型」は、低レベルの技能、過去、体操の授業で挫折や失敗の経験が多く、ネガティブな認識を持つ。
7.『幼稚園児の唾液α-アミラーゼ活性と運動能力との関係』	共著	平成30年 3月	韓国発育発達学会誌 第25巻・第4号 pp. 487-494	幼児期におけるstress reactionに関する基礎研究として、子どもの生活の中で受けるstress 度とその変動値を測定、運動能力との関連性を分析した。①基礎生活能力5つの領域による分類で、上位群(71-74点)、下位群(52-62点)の比較では、上位群16.8と下位群13.3で(p<01)差があった。②運動能力の測定では、女児15.6が男児15.3より高かった。③基礎生活能力と運動能力との関係で、上・下位群別、運動能力の評価総合点では、上位群16.8と下位群13.3で(p<01)上位群が高かった。④運動能力とstress調節能力との相関関係では、運動能力の高い(上位群)が下位群より、Stressコントロール能力が(p<05)有意に高った。(青山優子、鄭 英美) 『共同研究につき本人担当部分抽出不可能』
8.『Group Exerciseプログラムが中年女性の身体機能と酸化ストレスに及ぼす影響』	共著	平成30年 3月	韓国体育科学学会誌 第26巻・第1号 pp. 1029-1034	本研究は、継続的に実践できる運動プログラムを通して肥満予防や健康の維持に役立つ健康管理方法としてのGroup Exerciseプログラムの開発のための基礎研究である。方法としては、中年女性を対象に8週間、週5回60分間のGroup Exerciseプログラムを実施し、身体技能や酸化ストレス値の変化を測定した。結果、身体技能では、体重で61.97から60.43(p<01)で有意に減少し、体脂肪率で、27.02から25.25(p<001)で有意な減少が見られた。BMIでは、23.09から23.16に減少、酸化ストレス値では、382.00から334.50に(p<01)有意な減少が見られた。(鄭 英美、Young-Hwan Seo) 『共同研究につき本人担当部分抽出不可能』
9.『生活習慣病関連因子の改善のための肥満中年女性の自律フィットネス運動効果』	共著	平成30年 3月	韓国体育科学学会誌 第26巻・第1号 pp. 1151-1156	本研究は、成人女性の健康的スポーツライフの形成のため、肥満女性を対象に8週間、週3回の自律的運動を介して生活習慣病関連因子である血中の抗酸化力、総コレステロールと中性脂肪の変化を観察し、生活習慣病の予防に役立つ基礎的資料の確保の為にを行った。結果、運動群の血中抗酸化値の変化は、363.00から340.28まで減少、コレステロールは、223.28から192.42まで減少、中性脂肪は 118.42から108.85まで減少した。規則正しい運動は生活習慣病関連因子である血中の抗酸化力、総コレステロールと中性脂肪減少に効果があることが確認された。(鄭 英美、 Young-Hwan Seo) 『共同研究につき本人担当部分抽出不可能』

10. 『幼児体育関連教育課程における安全領域の導入の可能性の模索』	共著	平成30年 3月	韓国発育発達学会誌 第26巻・第1号 pp. 15-22	本研究は、幼児が一日中一番長い時間を過ごしている保育園や幼稚園、子どもが園生活を安全に過ごすようにするためには安全な環境づくりが極めて大事なことである。本研究は、国家の教育課程の内容に含まれている「安全領域」での教育内容に沿っての安全教育や安全な環境など運営実態やあり方についての調査研究である。小学校以上の教育課程の中で「安全領域」が独立領域として設定されたのは「2015教育課程」からである。それまでは、「健康領域」の中の小单元として設置されていた。一方、幼稚園の教育課程には、まだ独立できず、「身体運動・健康領域」の中に「安全に生活する」という項目で小单元として入っている。(Kim、鄭 英美、Park) 『共同研究につき本人担当部分抽出不可能』
11. 『日韓体育専攻大学生のスポーツ国際交流認識についての調査研究』	共著	平成30年 8月	韓国発育発達学会誌 第26巻・第2号 pp. 333-337	本研究は、日韓の学生を対象にスポーツ国際交流の認識、教育的効果などについて調査した研究である。 ①スポーツ国際交流の効果に対して、動機付け、競技力向上、「他国に対する好感向上」(p<001)、「国際感覚の向上」、「外国に対する情報向上」で(p<01)、「対人関係向上」(p<05)で有意に効果があると認識している。②スポーツ国際交流の必要性に対しては、「相手国に対する歴史・文化の理解・尊重」「外国語の習得」で両国ともに必要性について高い認識を持っていた。特に「相手国との関係と理解のため努力する」「参加意欲・情熱」で、両国ともに高い認識を持っていた。(鄭 英美、Young-Hwan Seo) 『共同研究につき本人担当部分抽出不可能』
12. 『日本の運動部活の成立過程と教育的効果及び満足度調査』	共著	令和元年 2月	韓国発育発達学会誌 第27巻・第1号 pp. 63-69	本研究は、日本の運動部活動の成立過程と教育的効果および満足度に調べた研究である。成立過程については文献調査を、教育的効果及び満足度については実際に部活動の経験のある学生たちを対象に調査した。運動部活動参加者における要因別 t-検定結果、「教育的効果」4.33±.518、「成長的效果」3.72±.657、「満足度」4.31±.504であり、競技力別差では、地区と全国大会出場レベルで成長的效果(p<.05)と満足度(p<.01)が高く、Duncan分析では、競技力が高い生徒が効果・満足度に対する認識が高かった(B、A<C)。(鄭 英美、Young-Hwan Seo) 『共同研究につき本人担当部分抽出不可能』
13. 『海外協定大学間共同研究及び学生交流の活性化の関する検討』	単著	令和元年 9月	九州共立大学研究紀要第10巻 1号 pp. 103-112	本研究は、21世紀のグローバル社会に対応できる人材を育成し強化するために、1年間、日本の大学と韓国の4つ(大邱大学、韓国教員大学、仁済大学、朝鮮大学)の大学の学生及び教員間共同研究、スポーツ・学術交流を行い、その過程と結果を報告したものである。国際交流の主な成果は、外国の文化を理解、グローバル感覚の獲得、友達が増えた、(外国語)言語の重要性の認識、他国の文化と歴史の理解であった。今後はもっと多くの学生が参加できるシステムの構築が必要とされている。

14.『よい器械運動授業の条件-5Gを中心に-』	共著	令和元年 11月	韓国発育発達学会 第27巻・第3号 pp. 253-260	本研究は、「良い授業に対しての意味規定」のため、教員志望学生を対象に「よい体操の授業の条件」について五つの要素を中心に分析した研究である。①Good Designでは、すべての生徒が達成感を味わえる目標の設定(58)、②Good Tellingでは、状況別、技別具体的な説明がある(逆上がりの実施方法、失敗した理由の説明)(58)、③Good Showingでは、積極的にお手本を見せる。完成形や実施方法(手順)などイメージ化(56)、④Good Involvingでは、技のできる子供ができない子供を教える、お互いに教え合う場面を作る(32)、⑤Good Understandingでは、運動原理・科学的知識・指導方法など(38) などが上がった。 (鄭 英美、Young-Hwan Seo) 『共同研究につき本人担当部分抽出不可能』
--------------------------	----	-------------	-------------------------------------	--

15.『小学校体育における教科書（副読本）活用の実態と意識に関する調査研究－日米中韓の国際比較から－』	共著	令和元年11月	公益財団法人中央教育研究所紀要「教科書フォーラム」No. 20pp. 26-40	本研究は、小学校体育における教科書（副読本）活用の実態と意識に関する調査研究である。分析対象は、日・米・中・韓で現在使われている小学校の教科書を14項目に細かく区分し、内容分析を行い、その内容を4か国間比較した。結果、どの国でも教科書は児童のためのものより教師のためのものとして位置づいている実態であった。教師に意思決定により情報が適切に取捨選択され、児童に提供されることであって、児童自身が教科書を活用しながら学ぶという視点は希薄であることが明らかになった。 (鈴木直樹、鄭 英美、佐藤貴弘、楊磊明) 『共同研究につき本人担当部分抽出不可能』
16.『ピグマリオンリーダーシップがLMX質と職務満足に与える影響－2018平昌冬季オリンピックのドーピング職務者の事例を中心に－』	共著	令和2年1月	Journal of the World Society of Taekwondo Culture pp. 47-64	本研究は、2018平昌冬季オリンピックのドーピング職務者の事例を中心にピグマリオンリーダーシップがLMX質と職務満足に与える影響について調査した研究である。ピグマリオンリーダーシップと管理員の職務満足との関係では、昇進満足で出力と雰囲気、仕事の満足で出力と雰囲気、上司満足で雰囲気と出力、保守満足で雰囲気と私的交流と出力が肯定的な影響を及ぼすことがわかった。LMX質と職務満足との関係では、昇進満足で感情的な愛着と忠誠心、仕事の満足では貢献意欲と知的尊敬、上司満足では感情的愛着と指摘尊敬が肯定的な影響を与えることがわかった。(Park、Lim、Kim、鄭 英美)『共同研究につき本人担当部分抽出不可能』
17.『スポーツ学部生のintern shipにおける児童との休み時間の関わりが、児童の体力・運動能力の発達におよぼす影響』	共著	令和3年9月	九州共立大学研究紀要 第12巻 1号	子どもは身体活動・遊びを通して、体力をつけ、成長していく。しかし、近年小学校児童の体力・運動能力の低下傾向は止まったものの、最も体力水準が高かった1980年頃と比較すると依然として低い状況にある(文部科学省、2016)本研究では、「運動遊びのリーダー」介入前後の児童の体力測定と生活習慣の変化から、スポーツ学部生のintern shipにおける「運動遊びのリーダー」としての児童との関わりが小学校児童の体力・運動能力の向上に有効であるか検討した結果、楽しい運動遊びは、仲間作りや児童の主体的な運動実践に繋がり、体力運動能力の向上へ向けた方法として有効であることが認められた。 (青山優子、鄭 英美) 『共同研究につき本人担当部分抽出不可能』

18.『保育者志望学生の過去の運動経験と現在の運動習慣及び健康に対する認識』	共著	令和4年 1月	尚綱子育て研究センター「見やらい」 第18巻第2号 pp. 135-146	人間の判断や意思決定の基になる知識や信念は、あらゆる学びや経験によって形成される。保育の場面で行われる保育計画や内容に対する判断基準や意思決定も勿論、保育者の過去の学びや経験などを通して形成された認識及び信念が関係してくると考えられる(志賀,1996)。特に保育者としての資質や保育スキルなどは、大学での経験や学びによって認識や信念として定着され、結果物として保育現場で発現されるものであろう。よって、保育者を志望する学生にとって保育者養成課程である短大2年間は極めて大事な期間である。そこで、本研究では、乳幼児期の健康と運動等との関連性、身体活動の大事さに対する認識や信念の形成に繋がる授業づくりのため、保育者志望学生を対象に過去の運動経験や現在の運動習慣、健康認識などについて調査分析した。(鄭 英美、青山優子) 『共同研究につき本人担当部分抽出不可能』
19.『日韓における保育・幼児教育課程についての比較研究-健康領域の目的と内容を中心に-』	共著	令和4年2月	韓国発達学会 第30巻・第1号 pp. 71-79	本研究は、社会・文化的、様々な要因から多くの関連性を持ち、最近隣国である、日本と韓国の保育・幼児教育における保育目標や保育内容、指導方法などについて内容を分析したものである。健康領域の目的及び内容ともに同じ方向性を持っていることが分かった。違いとしては、日本の方で幼児期の運動に対して強い意志が示されていることが判明された。(鄭 英美、Young-Hwan Seo) 『共同研究につき本人担当部分抽出不可能』
20.『幼児における動きの習得や健康的運動習慣が形成できる保育指導力の育成に向けての保育者養成課程の幼児体育授業の取組』	単著	令和4年2月	韓国発達学会 第30巻・第1号 pp. 51-60	本研究では、幼児における動きの習得や健康的運動習慣が形成できる保育指導力の育成に向けての保育者養成課程の幼児体育の授業の取り組み。近年子どもの体力・運動能力の低下傾向は止まったものの「体力そのものより、基本的な動きを習得していない子どもが多い」ことや運動する子どもとそうでない子どもの2極化現象(中村、2010; 文部科学省、2012)等が新たな課題として報告されていることから、子どもにおける動きの習得や運動習慣の形成できる保育指導力の育成のため「幼児体育・運動遊び」の授業を取り組み、その効果について考察する。
21. 幼児期体力・運動能力向上及び運動習慣形成のための考察	共著	令和5年9月	韓国発達学会 第31巻・第2号 pp. 51-60.	本論文では、幼児の成長・発達における量的変化の現象を特定し、その指標を作成するために、【MKS幼児運動能力テスト】をご紹介します、韓国の幼児教育機関をはじめ、より多くの幼児教育施設で【MKS幼児運動能力テスト】を定期的実施するように呼びかける。小学生を対象とした調査では、運動能力テストを実施した幼稚園卒園生は、実施しなかった幼稚園卒園生に比べ、体力要素のすべてにおいて優れていることが確認された。鄭 英美、浜崎隆司、Young-Hwan Seo 『共同研究につき本人担当部分抽出不可能』
22.『日韓幼児における基本的な生活自立能力及び運動習慣に対する違い』	共著	令和6年3月	韓国発達学会 第32巻・第2号 pp. 121-129.	本研究は、日本と韓国の幼児を対象に体力と日常瀬尾克自立能力について調査し、その差についてまとめたものである。 鄭 英美、CHAE, JIN-YOUNG, SHIM, MI-GYONG

23. 『日本と韓国の保育士希望学生の運動経験による幼児体育および健康教育に対する認識』	共著	令和6年7月	韓国学習者中心教科教育学会誌 第24巻・第14号 pp. 849-861.	本研究は、保育者志望学生における過去の運動経験による運動・健康に対する認識・健康教育についての認識の差についてまとめた研究である。 鄭 英美、Jung-Sun Guen
--	----	--------	---------------------------------------	---

(その他) 学会発表・フォーラム発表 24編				
1. 『Q方法論を用いての中学生アスリートの怒りの表現タイプに関する研究』	共著	平成25年 9月	韓国スポーツ教育学会 (慶北大学、韓国) 学術研究発表	本研究は、韓国中学校運動選手の怒り表現方式のタイプを分析し、各タイプ別特性についてまとめた研究である。タイプⅠ：怒り調節型(11名：感情を抑えたり、何らかの形で自ら感情をコントロールするタイプ)、タイプⅡ：怒り抑制型(14名：感情を抑え、コントロールも表現もしないでただ我慢し、溜めるタイプ)、タイプⅢ：怒り表出型(10名：怒りを周りの人に当たるなど気分のままに表現するタイプ)に分類された。(鄭 英美、金准勇)『共同研究につき本人担当部分抽出不可能』
2. 『Discussion on Creativity concept in Physical education 身体教育における創造性の概念に関する議論』	共著	平成25年 10月	The Fourth Pacific Rim Conference on Education 2013 (慶州ヒルトンホテル) 学術研究発表	これまでの体育分野においては、創造力についての正しい定義はなかった。今までは、他の分野から定められている「創造力」という概念をそのまま受け入れ、体育の分野に当てはめていた。しかし、この研究では、多くの研究者が提案している「創造力」についての概念をまとめ、体育分野ならではの「創造力」についての意味をまとめた。精神運動領域には、洗練、変化、即興、作曲が含まれます。第二に、認知領域には、設計、想像、問題解決、および正当化が含まれる。第三に、感情的な領域には、動機付け、冒険、美的評価、および責任が含まれる。(SOHN Junkoo、海野勇三、鄭 英美、黒川哲也、中島憲子 他2名)『共同研究につき本人担当部分抽出不可能』
3. 『Only Student Knows the Reality in PE Classes and can Tell That Actual Conditions and Problems in Japan and South Korea 体育授業の現実を知り、それについて語れるのは児童・生徒だけである-日本及び韓国における体育授業の実態と諸問題』	共著	平成25年 10月	The Fourth Pacific Rim Conference on Education 2013 (慶州ヒルトンホテル) 学術研究発表	本研究では、日本及び韓国における小学校体育授業の実態について、特に学習成果、学習への構え、教師の指導タイプの関係の観点から検討を行った。児童たちが日々の体育授業に対して実際に考え、感じていることに耳を傾けることを目的とした。①「学習成果」では、「実践的知識・理解」及び「運動有能感」において韓国が日本よりも有意に高い。②「学習への構え」では、「教え合い」「規律遵守」及び「献身」において日本が韓国よりも有意に高かった。③「教師の指導性」では、「規律指導」及び「共感的雰囲気」において日本が韓国よりも有意に高かった。(海野勇三、SOHN Jungoo、鄭 英美、黒川哲也、中島憲子 他2名)『共同研究につき本人担当部分抽出不可能』

4.『スポーツ少年団の運営の実態と問題点-青森県H市内におけるスポーツ少年団を対象として-』	共著	平成26年 2月	韓国体育教育学会 (高麗大学、韓国) 学術研究発表	本研究は、日本H市のスポーツ少年団の運営の実態を把握するとともに、日本スポーツ少年団が抱える今日の課題を検討した研究である。現状に対する問題点や課題等を明らかにし、今後のクラブ運営のあり方についてまとめた。活動形態は単一種目が主体である、中・高校生層を含めたクラブが少ない、「勝つことを目的に運営すること」について賛成群が大半、賛成群と反対群との間で活動の仕方は異なる傾向にある。団員の心身の健全な発達と生涯スポーツの基盤を形成する少年団としての充実をより一層図れるよう工夫することが必要である。(清水紀人、鄭英美、上野秀人) 『共同研究につき本人担当部分抽出不可能』
5.『日本における学校体育と生涯スポーツの関わり』	共著	平成26年 2月	韓国体育教育学会 (高麗大学、韓国) 学術研究発表	本研究は、日本における学校体育と生涯スポーツの関わり、日本の学校体育目標 歴史的変遷、日本の学校に求められている課題、総合型地域スポーツクラブの状況と役割についての研究である。これまでのスポーツでは、男性中心的、体力のある若者、運動の上手な人、選ばれた一部の人、学校や企業で行なうもの、勝利・記録達成や教育をめざして多くのことを犠牲にして行うものであったが、これからのスポーツは、性別を問わず、生涯を通じて行う、技能と関係なくみんなのもの(スポーツ権)、各自の生活に即した場や機会で行なうもの、各自の目的に合わせて自らの生活に適切に位置づけて自らの生活に適した時間に行う必要がある。 (鄭 英美、清水紀人)『共同研究につき本人担当部分抽出不可能』
6.『A Study on the Elementary Pre-teacher's Recognition for the Gymnastics class through the Q methodology Q方法論を用いて教師希望学生における器械運動に対する認識』	単著	平成29年 6月	The 2017 International Conference for the 6th East Asian Alliance of Sport Pedagogy (仁川大学、韓国) 学術研究発表	本研究では、教員養成大学での体操授業づくりの基礎資料のため、教員志望学生における体操の授業に対する認識タイプとタイプ別の特性について分析した。結果、3つのタイプに分類。タイプⅠ「技能達成志向型」は、身体的能力の価値を重視、高レベルの能力を持ち、過去積極的な授業への参加で多くの成功や達成感の経験、肯定的な認識を持つ、タイプⅡ「認知教育志向型」は、技能レベルはやや低いが技能の大事さと共に体操の本質的価値について理解、知識的な部分に対しても認識が高い。タイプⅢ「授業消極回避型」は、低レベルの技能、過去体操の授業で挫折や失敗の経験が多く、ネガティブな認識を持っている。
7.『教員養成課程のダンス授業における技能評価力育成に向けての取組-ダンスの技能評価観点の可視化を目指した教材づくり』	共著	平成29年 8月	九州体育・スポーツ 学会 (福岡大学) 学術研究発表	本研究では、教員養成系大学のダンス授業における技能評価力育成のため、ダンスの技能評価観点の可視化教材について検討・作成した研究である。ダンスで表現されている動きやイメージの特徴に対してカテゴリ化する。それらを基準にした動きの名称化・動画の教材用の資料を用いて、ダンス(表現)の評価の繰り返しの学習を通して、ダンス(表現)についての判断基準が形成され、具体的な「良い表現」の理解が深まる可能性が示唆された。(榕ちか子、小松恵理子、青山優子、檜垣淳子、鄭 英美) 『共同研究につき本人担当部分抽出不可能』

8.『よいダンス授業の条件-5Gを中心に-』	単著	平成29年 8月	九州体育・スポーツ 学会 (福岡大学) 学術研究発表	本研究では、「良い授業に対しての意味規定」のため、教員養成大学でダンス指導法を受講している学生を対象に「よいダンス授業の条件」について五つ要素(5G)を中心に調査を行ったものである。①Good Designでは、学習者分析(事前調査)を通じて生徒のレベルに応じた目標設定等 ②Good Tellingでは、生徒のレベルに適した言語の使用、全員が集中できる説明方式等③Good Showingでは、スライド、映像の積極的な活用等、④Good Involvingでは、誰にでも気軽に参加できる暖かく楽しい学習雰囲気作りなど、⑤Good Understandingでは、授業内容についての十分な説明、学習カードの活用などであった。
9.『「対話型保育」を介して発現されている乳幼児の主体意識と想像力 - 1歳から可能な「身体表現遊び」を中心に- 』	共著	平成30年 5月	韓国発育発達学会 春季学術大会 (朝鮮大学、韓国) 学術研究発表	本研究は、乳・幼児を対象に身体表現遊びを通して子供たちの想像力や表現力の成長可能性を測った研究である。1歳～2歳頃の発達の特徴は走る・跳ぶなどの運動機能や、ちぎる・しっかり握るなどの指先の機能が発達し、索が盛んで模倣はできるが言葉はまだ十分ではない。2歳～3歳頃は動きが巧みになり腕も上手に使える、力強く物を引っ張ったり体を支えたりでき、さらに想像力の発達と共に見立て遊びや模倣遊びが大好きである。このような発達の側面を充分考慮して展開したことで、子ども主体の保育者の援助の仕方(示すー引き出すー手放す)や対話的やり取りの中で子ども自身にイメージが沸き、主体的かつ創造的な表現遊びに繋がったと推察する。(青山優子、鄭英美) 『共同研究につき本人担当部分抽出不可能』

10. 『日本の学校運動部活動の定着過程と教育的効果と満足度の分析』	共著	平成30年 5月	韓国発育発達学会 春季学術大会 (朝鮮大学、韓国) 学術研究発表	本研究は、日本の運動部活動の成立過程と教育的効果および満足度に調べた研究である。成立過程については文献調査を、教育的効果及び満足度については実際に部活動の経験のある学生たちを対象に調査した。運動部活動参加者における要因別t-検定結果、「教育的効果」 $4.33 \pm .518$ 、「成長的効果」 $3.72 \pm .657$ 、「満足度」 $4.31 \pm .504$ であり、競技力別差では、地区と全国大会出場レベルで成長的効果 ($p < .05$) と満足度 ($p < .01$) が高く、Duncan分析では、競技力が高い生徒が効果・満足度に対する認識も高かった (B、A<C)。(鄭 英美、Young-Hwan Seo)『共同研究につき本人担当部分抽出不可能』
11. 児童の運動能力に及ぼす生活習慣について』	共著	平成30年 9月	第67回 九州体育・スポーツ学会 (熊本学園大学) 学術研究発表	本研究は、小学生を対象に生活習慣と運動能力の関連性について明らかにした研究である。生活習慣についてはアンケート調査を行い、運動能力の測定では、8項目になっている体力測定を通して彼らの運動能力を測定した。新体力テスト総合得点で全国平均を上回り、特に20mシャトルランは大きく上回り、運動能力は高かった。活動群と不活動群ではほとんどの種目で活動群が上回って、上学年になると総合得点に有意差が生じた。生活習慣で観ると5つの項目で、活動群が不活動群に比べ有意に多かった。運動しない理由として、「運動する場所がない」「運動が嫌い」「運動より電子機器で遊ぶ方が好き」が挙がっていた。(鄭 英美、青山優子)『共同研究につき本人担当部分抽出不可能』
12. 『教職希望学生における保健体育科「模擬授業」を通しての経験と学び』	共著	平成30年 9月	第67回 九州体育・スポーツ学会 学術研究発表	本研究は、教職課程における「模擬授業」での学びについての研究である。①最も難しかったこと、場面の展開、②領域ごとに少なくとも1回以上は実施が必要 ③期待としては、男女共に当分野への知識や技能の習得、指導力の向上 ④準備 (ADD) での難点は、男女共に仮想の対象のレベルに合わせた内容、授業の系列、流れの決定⑤実施 (I) では、言語的説明、授業の運営(時間配分)、技能の説明、楽しい授業づくり等 ⑥評価 (E) では、目標への到達度の確認、学習カードの使用方生徒の評価、満足度の確認 ⑦学びは、言語的説明の重要性、準備と教師の言動の大事さ等。(鄭 英美、Young-Hwan Seo)『共同研究につき本人担当部分抽出不可能』

13.『教員養成課程のダンス授業における技能評価力育成に向けての取組(2)ーダンスの技能評価観点の可視化教材の効果的な活用方法について』	共著	平成30年 9月	第67回 九州体育・スポーツ学 会 (熊本学園大学) 学術研究発表	本研究では、教員養成系大学のダンス授業における技能評価力育成のため、ダンスの技能評価観点の可視化教材について検討・作成した研究である。その結果、動画を伴う教材については学生にはおおむね好評で、具体的な「良い動き」の理解が深まる可能性が示唆された。また、評価観点をまとめた図については、平面的に見えてしまうため、説明がないと理解しにくい部分が多くあることから、色使いや立体的な表記方法など、工夫が必要であると考えられた。(梶ちか子、小松恵理子、青山優子、檜垣淳子、鄭 英美) 『共同研究につき本人担当部分抽出不可能』
14.『乳幼児の主体と想像(創造性)を育む保育実践-1、2歳児の「身体表現遊び」を通して』	共著	平成30年 10月	2018, The 99th National Sports Festival Commemoration The 56th Korea Physical Education Association Conference and the 30th International Sports Science Conference (Wongwang University of Korea) 学術研究発表	本研究は、多様な表現や運動遊びを通して子供たちの主体性や想像力を育む方法を探った研究である。実際に保育園の中での活動を撮影し、幼児の表現を分析した。2歳の「わらべ歌遊び」では、まだ言葉の表現は十分でなく明確に歌えなかったが先生の歌に合わせてリズムカルに楽しく動いた。3歳児の「タオル遊び」では、タオルで多様な形を作ることに喜びを感じ、イメージを膨らませ自ら工夫し、多様なタオル遊びを楽しんだ。4歳児の「ダンボール箱遊び」では、イメージからムーブメントへと移動しながら楽しんだり、友達との協力し、イメージを広げていた。また、発達段階ごとに他者との違いを見つけた、模倣することで、幼児たちは表現を深めていた。(青山優子、鄭 英美) 『共同研究につき本人担当部分抽出不可能』
15.『小学生の生活習慣と運動能力との関係』	共著	平成30年 10月	2018, The 99th National Sports Festival Commemoration The 56th Korea Physical Education Association Conference and the 30th International Sports Science Conference (Wongwang University of Korea) 学術研究発表	本研究は、小学生を対象に生活習慣と運動能力の関連性について明らかにした。2年目の調査では、活動グループが非活動グループより上回っていることが確認された(p<01)。学年が上がるにつれて児童が日常生活の中で運動参加時間と体力レベルが向上されることが確認された(p<001)。ほとんどの児童は、1日1時間以上、1週間に7時間以上運動をしていた。学年による運動能力の変化では、高学年より低学年の方で進学による変化が大きかった。(鄭 英美、青山優子) 『共同研究につき本人担当部分抽出不可能』

16.『日本の中・高校における教育課程と体育教育』	単著	令和元年 1月	大邱大学教育大学院 招待特講	大邱大学教育大学院の院生(中・高体育教員志望)を対象に冬季特講を実施。詳細講義概要については、①日本学校体育の開始背景と流れ、②学校体育教育の目的と内容(韓国含む)、③体育教師の業務、④面白い村の風景(彼らが住む町内)以上4つのテーマで講義を実施した。
17.『21世紀社会が求める体育教師の資質や能力』	単著	令和元年 8月	大邱大学教育大学院 招待特講	大邱大学教育大学院の院生(中・高体育教員志望)を対象に夏季特講を実施。詳細講義概要については、①21世紀社会が求める核心能力(Key-Competency)について、②OECDが提示した重要な能力(Key-Competency)を中心に議論、③現代を生きる子供たちの現象、④2015改正6課程で学校教育に要求すること、⑤体育教育の価値、学校体育教育で何をすべきか?、⑥体育教師に求められる資質や能力について。以上6つのテーマで講義を実施した。
18.『スポーツ学部生のintern shipにおける児童との休み時間の関わりが、児童の体力・運動能力におよぼす影響』	共著	令和元年 9月	第68回 九州体育・スポーツ学会 (鹿児島国際大学) 学術研究発表	子どもは、身体活動・遊びを通して、体力をつけ、成長していく。しかし、近年児童の体力・運動能力の低下傾向は止まったものの、体力水準が高かった1980年頃と比較すると依然として低い状況にある(文部科学省,2016)本研究では、「運動遊びのリーダー」介入前後の児童の体力と生活習慣の変化から、スポーツ学部生のintern shipにおける「運動遊びのリーダー」としての児童との関わりが児童の体力・運動能力の向上に有効であるか検討した結果、楽しい運動遊びは、仲間作りや児童の主體的な運動実践に繋がり、体力運動能力の向上へ向けた方法として有効であることが認められた。(青山優子、鄭英美) 『共同研究につき本人担当部分抽出不可能』
19.『よい器械運動授業の条件—5Gを中心に—』	共著	令和元年 9月	第68回 九州体育・スポーツ学会 (鹿児島国際大学) 学術研究発表	本研究では「良い授業に対しての意味規定」のため、教員志望学生を対象に「よい器械運動授業の条件」について五つ要素を中心に分析した。 ①Good Design(授業設計)では、すべての生徒が達成感を味わえる目標の設定(58)、②Good Telling(言語的)では、状況別、技別具体的説明が必要(58)、③Good Showing(視聴覚提示)では、積極的にお手本を見せる。完成形や実施方法(手順)、イメージ化(56)、④Good Involving(参加促進)では、子供同士の教え合う場面(32)、⑤Good Understanding(内容の理解・指導)では、運動原理・科学的知識・指導方法など(理論的な説明が必要)(38)など。(鄭英美、Young-Hwan Seo) 『共同研究につき本人担当部分抽出不可能』

20.『高齢者の日常における運動習慣を育む運動プログラムの開発』	共著	令和2年9月	第69回九州体育・スポーツ学会 (沖縄大会ONLINE参加) 学術研究発表	高齢者に対する運動介入を行い、体力の向上や運動習慣を検討し、日常生活で高齢者が主体的に取り組みやすい運動や指導方法について明らかにするため、高齢女性 16 名を対象に月 2 回笑顔で実施できるベースの運動を 1 時間合計 10 回実施した。全被検者に対し介入開始前と終了時の 2 回、文部科学省作成新体力テスト(65～79歳)とアンケートを行った。対象者はサークル活動での運動実施以外に、自宅での運動実施が推察される。つまり歌詞カードの作成はわらべ歌を思い出し、歌うことであり、歌いながら体を動かし、体力・意欲の向上に繋がったといえる。(青山優子、鄭英美)『共同研究につき本人担当部分抽出不可能』
21.『保育者志望学生における運動遊びの経験と現在の運動状況及び運動・健康に対する認識調査』	共著	令和3年8月	第70回九州体育・スポーツ学会 (西南学院大学) 学術研究発表	本研究は、保育志望学生を対象に幼児期の運動遊びや健康に対する肯定的な認識と信念の形成に繋がる教育環境づくりのための基礎研究である。過去「毎日運動遊びを行った」は、71名(50.4%)に止まる。「幼児期の運動遊びの経験による運動・健康状況」では、運動の部分で、「好き嫌い」「運動効果を知る」などすべての項目で「運動遊びの経験」の多い方が有意に高かった。健康の部分でも、「健康である」「興味有る」「健康のための運動実践」それぞれの項目でも「運動遊びの経験」の多い方が有意に高かった。「幼児期の運動遊びの経験による運動・健康に対する認識」では、運動認識、健康認識共に「運動遊びの経験多く、運動好き」の方が $p<.001$ のレベルで有意に高かった。(鄭英美、青山優子)『共同研究につき本人担当部分抽出不可能』
22.『日・韓の女子スポーツを知ろう!』	単著	令和3年11月	2021男女共同参画フォーラム (東京江東区男女共同参画推進センター) フォーラム講演	「日・韓の女子スポーツを知ろう!」というテーマで、2021男女共同参画フォーラムでの講演。韓国のエリートアスリート教育・制度、日・韓の女子学生のスポーツライフ、日・韓女子スポーツの違い、スポーツのジェンダーフリーについて考える。詳細内容としては、「私が経験した韓国の体操エリート教育」「日・韓にみる幼児期の運動遊びの大切さ」「現在、韓国では女子中・高生の体力低下が深刻な問題に」「日本の部活動システムは韓国にはない」「東京五輪を契機に日韓女子スポーツは変わる!」などのテーマで講義を実施した。
23.『Direction of Curriculum Innovation for Sports and Physical Education Development スポーツ・体育教育発展のための教育改革の方向性 -日本事例中心-』	単著	令和3年11月	2021 Fall International Conference of the Korean Association for Physical Education (韓国 忠北大学) 学術研究発表	韓国の小・中・高等学校における「運動選手(運動部活動所属児童・生徒)」をめぐる多くの課題についての改善策の検討。外国の学者による研究及び事例を紹介。参加国としては、アメリカ、中国、日本、韓国、イギリス5ヶ国から、運動部活動の経験や指導経験のある教育者・研究者が参加し、各国における運動部活動(スポーツ関連クラブ、サークル)についての教育的環境・運営状況や課題などについて情報共有。本人は、「スポーツ・体育教育発展のための教育改革の方向性 -日本事例中心-」について発表した。内容としては、①日本の中・高運動部活動状況、②日本国家レベルでの制度的装置(学習指導要領)、③韓国と日本の学校体育の意味及び課題、④韓国と日本中・高生の運動習慣及び体力状況、⑤学校体育科教育・運動部における今後の課題である。

24. 幼児期の体力と運動習慣形成のための幼児期運動能力測定に関する考察	共著	令和5年 5月	韓国発育発達学会 春季学術大会 (朝鮮大学、韓国) 学術研究発表	日本と韓国の幼児の体力・運動能力の比較研究に先たち、幼児の成長・発達の量的変化の現象把握と運動習慣の形成のための環境組成の指標づくりのため、文部科学省(2002)により開発され、20年余り継続的に幼児教育機関で活用されている測定方法[幼児運動能力検査]を紹介する。実際、小学生を対象とした体力・運動能力調査で、検証できた、幼児体力・運動能力調査を次の研究では、実際、両国の幼・保育施設を訪問し測定を行い、その差について明らかにしたい。
25. 韓国と日本の幼稚園教諭志望学生における運動経験による運動と健康教育に対する認識調査	共著	令和5年 10月	第104回韓国国体記念 全国学会 (国立木浦大学、韓国) 学術研究発表	幼児教育の重要領域の一つである「健康」領域に対する積極的な教授態度と指導専門性の形成に役立つ基礎資料の確報のために、韓国と日本の保育者希望学生を対象に、過去運動遊び経験と現在の体力状態及び運動・健康教育に対する認識を調査した。過去の運動経験と現在の運動参加可否と健康に対する認識に正の相関性があった。
26. 保育者養成課程における体系的なICT活用指導力の育成に向けた科目連携の検討	共著	令和5年 10月	第104回韓国国体記念 全国学会 (国立木浦大学、韓国) 学術研究発表	コロナ禍を経て、学校教育のみならず、保育の現場でもICT活用が進み、生成AIを活用するなど、新たな技術を活用した試みも始まっている。また、保育者が活用するだけではなく、幼児自身が、タブレットなどの情報機器を活用した教育活動も実践されている。そうした状況に鑑み、情報を適切に活用できる能力(ICT活用指導力)の育成に向けて、保育者養成課程の学生を対象にICT活用に関する意識を調査した。
27. 『体育を通して知的障害児やASD児の社会性の発達をサポートする』	共著	令和6年 8月	88オリンピック記念 36回国際学術学会 (SUNMOON UNIVERSITY 韓国) 学術研究発表	ASDの症状を持つ子どもを対象にムーブメント教育を通して教育的効果を図るために行った研究である。ASD児の学習活動に変化が現れた。友達の動きをみて模倣する様子がみられたり、自分から友達に近づいていき共に活動するコミュニケーションスキルの様子が観察されたりする等、ASD児の社会性の発達に関して複数の成果がみられた。
28. 『Analysis of differences in perception of good major classes as perceived by Korean and Japanese pre-service teachers』 - Focusing on the [Physical Health] area-	共著	令和6年 8月	88オリンピック記念36 回国際学術学会 (SUNMOON UNIVERSITY 韓国) 学術研究発表	日本と韓国の保育者志望学生における「良い専攻授業」についての日韓比較を行った研究である。保育内容5つ、すべての領域で日本より韓国の学生の方が内容の理解度や指導に対しての自信について高い認識と自信を持っていた。